ななむら

第126号
発行：照来地区公民館
責任者：館長
☎ 92-1738

令和7年12月1日現在
世帯数：517世帯
人　口：男　608人
　　女　700人
　　計　1,308人

今年もお世話になりました!

１２月１日、今年話題になった言葉に送られる「新語・流行語大賞」が発表され、年間大賞には高市早苗首相が語った言葉「働いて 働いて 働いて 働いて 働いてまいります」が選ばれました。

私はこの１年、計画していた公民館事業ができなかったこと等もあり、高市首相が語った言葉のようには残念ながら働けませんでした。大変申し訳なく思っています。しかし、新規事業２件を含めたその他の公民館事業は、照来地区の皆さまの格別のご理解とご協力をいただき、無事終えることができました。本当に心より感謝申し上げます。

今年も残りわずかとなりました。インフルエンザも流行しているようですから、健康には十分留意され来年もまた皆様にとりまして、素晴らしい年になりますようお祈りいたします。

近畿公民館大会に参加しました!

１１月２８日（金）福知山市で開催された「近畿公民館大会」に参加してきました。

この大会は、近畿２府４県の公民館関係者、社会教育関係者が集い、社会の動向や地域の未来を見据えながら、これからの公民館が果たすべき役割や可能性について共に考え、地域コミュニティの活性化や全ての**ウェルビーイング**の実現に向けて研究を深めるとともに、今後の公民館活動の一層の充実・発展を図るために開催するものです。

ウェルビーイングとは、よい（well）+状態（being）という言葉からなり、簡単にいうと、個人の心身と社会が共によい状態であることを意味します。広義には幸福感を意味します。

内容としては、表彰式や記念講演の全大会と分科会がありました。

全体会

全大会の記念講演は、広島県大竹市玖波(くば)公民館の公民館事業の改革についてのお話しでした。以前の玖波公民館は「ダサイ・暗い・野暮ったい」「自主事業もマンネリ化」「参加者も固定化」という状態だったそうです。なんとかしたいという思いから2011年から改革をスタートさせ、現在では参加者が大幅に増えています。お話しは、大きく分けて３つありました。

（１）住民主体のまちづくり・意識改革
自主事業講座「学びのカフェ」をスタート　⇨　公民館をおしゃれにイメージチェンジ
居心地がよくゆったりできるおしゃれな空間で、講師と受講者が同じ目線で参加できる講座

（２）多世代・多様な交流
公民館、学校、地域が連携　⇨　地域の中学生、地域の若者が積極的に協力

（３）人と人のつながり
「人と人のつながり」とは、どんなに社会が変わっても、変わらないもの・大切なもの

多くの公民館が抱える課題を解決している大変すばらしい講演でした。

規模的に照来地区公民館とは大きく違いますが、大変ユニークな講座や交流事業を開催していました。中には私の考えていたものと同じような講座も多くありましたが、玖波公民館との違いは「やるかやらないか」だと思いました。どんなに良いことを考えても実施しなければ、何もしないことと同じです。

「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」の精神でいかねばと思います。

分科会

私の分科会では「多世代が集う公民館を目指して」というテーマで話し合いがなされました。どこの公民館も多世代が集う事業には大変苦慮しているとの意見が大半でした。

私も公民館事業に対する考え方や多世代が集う取り組みについて、意見を述べさせていただきました。すると、参加者から「スタンプラリーや紙芝居は良い取り組みですね！」と言われ、ちょっと良い気分になり喋り過ぎてしまいました。褒められるとすぐ調子に乗る悪い癖が出てしまいました。

『無用の用！』

１２月８日ノーベル化学賞を受賞した北川進京都大特別教授が、スウェーデンのストックホルム大の講堂で記念講演を行ないましたが、その際**「無用の用」**という考え方を紹介し「無用なものなど存在しない」と話しました。

「無用の用」とは、一見意味がないように感じるものが、実は重要な役割を担っているという意味です。

私も無用なことはないと信じてきましたが、自信をもって言えませんでした。しかし、今回、老子や荘子の言葉ではありますが、北川教授が話されたことで確信に変わりました。

皆さん、無用なことはありませんよ！

お知らせ

令和8年の1月、2月の「メディカルヨガ教室」をはじめとする公民館事業は、例年どおり積雪や路面の凍結等が予想されるため、お休みといたします。

館長

照来の歴史（80）『古道（旧道）』

大正４年に刊行された美方郡誌に、照来の道路についての記述がありました。それによると「道路は道幅が狭く山石が散積し雨天時には泥はね著しく下駄などでの通行容易ならず。」と記されています。

明治時代だと思われますが、照来から他村に通ずる道路として、現在使用されている道路を含め、次のような道路があったようです。＜原文は読みにくいため、修正している部分があります。＞

（イ）湯村に達するもの　　[１里＝3.9273㎞　１町＝109m]

桐岡と湯村を連絡する主要なる道路にして、人事上経済上最も深き関係を有す照来村内飯野の一部を除けば湯村に達するもの皆この道による外なし。道程この間三十町（3.27㎞）とす。その内桐岡に近きおおよそ三分の一は傾斜、最も急にそのうえ石片多く突起して車の通行すこぶる難渋なり。

（ロ）竹田に通ずるもの

飯野と温泉村の内竹田村とを連絡するものにして、道路やや平坦良道を交へ車馬の通ずることを得道程一里十四町（5.45㎞）とす。飯野の村外より行くこと二十余町にして田園の間を左に分岐する一間道あり、数町にして八田村千原に達する近道とす。

（ハ）柤に通ずるもの　　[開闊＝見通しの良い広々とした場所]

多子村より切畑を経て柤に通ずる道路にして、この間一里十四町（5.45㎞）なり。多子村より俗称切畑野に至る十五六町（約1.7㎞）間は少々急傾斜をなせるものあれ、それより本村に至る間は**開濶（かいかつ）**せる波状地にして格別の傾斜なく柤に達することを得又切畑野の中央より十余町にして春来峠に通ずる分岐路あり。湯谷越に比すれば迂回路なるも春来の険しい坂を避けんとするものはこの道によるを便とす。

（ニ）春来に通ずる間道

俗に湯谷越という。多子より字和津ニゴリ牛ヶ谷を経て春来峠の西麓高橋（橋名）の袂(たもと)に於て県道に合す山腹の小みちにして差したる勾配なく行旅平易なり。

（ホ）中辻より岸田に通ずるもの

俗に関尾峠という。中辻村を下ること数町にして字セトノ森に至る。これより田圃の間の坂路を登ることおおよそ七八町（約800m）にして雑木繁茂せる青地林に至る。これより八九町（約900m）にして頂上に達し、それより十二三町（約1.4㎞）山を下りて岸田村に着すべし。峠高峻にして赤土の坂路なれば通行困難なれも、奥八田に通ずる主要の間道なれば人通り常に絶えず。

（ヘ）塩山より前村に通ずる間道

俗に寸原峠という。塩山村より迂回せる坂路を上ること十二三町（約1.4㎞）にして頂上に達す。これより十四五町（約1.6㎞）前村に至る。関尾峠より稍々(やや)低地なれば旅人またこの道を選ぶもの多し。

（ト）飯野より宮脇に通ずる間道　　[傅＝教育者、子どものもり役]

俗に宮脇峠という。坂路険しければ行人はなはだ稀なり。里人**傅（ふ）**へ伝う狼等棲息せしとこの間一里（約4㎞）弱。

温泉町郷土読本にも「照来と八田を結ぶ道」の記述があります。

1 飯野から宮脇峠を越え宮脇に行く「宮脇越え」
2 塩山から寸原峠を越え前村に行く「寸原越え」
3 中辻から関尾峠を越え岸田に行く「関尾越え」
4 照来里道飯野から千原に行く道